

**トンガ王国における
障害者施設歯科医療ボランティア活動
—2009年の活動報告—**

- 遠藤眞美^{1,2,3)}・竹内麗理^{3,4)}・河村康二^{3,5)}・
河村サユリ^{3,5)}・田口千恵子^{3,6)}・小林清吾^{3,6)}・
妻鹿純一²⁾・柿木保明¹⁾

- 1) 九州歯科大学生体機能制御学講座
摂食機能リハビリテーション学分野
2) 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座
3) 南太平洋医療隊
4) 日本大学松戸歯学部口腔分子薬理学講座
5) カワムラ歯科医院
6) 日本大学松戸歯学部社会口腔保健学講座

【要約】

トンガ王国の障害者施設において施設利用者が口腔領域に関する保健活動や医療を円滑に受けられるように南太平洋医療隊が実施している歯科医療ボランティア活動が本隊の一方的なものから協力型・自立型へ幅を広げていると考察できた。

【緒言】

南太平洋医療隊は、トンガ王国（トンガ）で現地歯科医療スタッフ（現地スタッフ）と協力をしてヘルスプロモーションの考え方を軸に国民全体に対して食事・栄養改善、学校保健システムの確立および予防歯科保健システムの推進を目的とした歯科保健医療ボランティア活動を実施している。

2005年から障害児・者施設での活動を開始した¹⁾。本活動は施設利用者が口腔領域に関する保健活動や医療を円滑に受けられるように施設利用者の健康支援である。今回、障害者施設における2009年の現地活動について考察する。

【方法】

対象はトンガ本島の発達障害児・者と聴覚障害児・者対象の通園施設および主に身体障害者が生活している入所施設である。

本隊隊員3人と現地スタッフ2人が中心になって活動した。具体的には施設利用者の歯科健診、口腔ケアに関する支援（物品寄付、個別歯ブラシ立て作製、本人・介護者への歯磨き指導など）、食事に関する支援（食内容、食環境指導、機能訓練）、利用者、介護者および関連職種に対する知識普及のためのワークショップを

行った。物品寄付において予算と運搬の問題から、現地スタッフ作製のアクセサリーや日本から持参した洋服などをフリーマーケットで販売し、その収益で歯磨剤を購入した。また、日本の中古車椅子をトンガ王国車椅子協会総会で寄付し、その際のテレビ取材にて本隊の活動を紹介した。

【結果】

本活動は本隊中心型から現地スタッフとの協力型、自立型へ移行している。

施設利用者への保健指導実施は現地スタッフのみで実施可能となり、フリーマーケットの準備・参加、個別歯ブラシ立て作製、ワークショップ準備・実施などでは昨年以上に研修や計画立案などを自主的に勤務時間外にまで行うようになった。

昨年からは歯ブラシの個人使用を促すため名前を記載した歯ブラシを寄付する方法に変更した。名前の記載された歯ブラシを現地スタッフが保管し、歯ブラシの交換時期に訪問し古い物と交換する方法にしたところ通年を通じた活動につながり、職員との間に信頼関係が生まれていた。しかし、歯ブラシの個人使用の定着は難しく本年は個人の歯ブラシ立てを作製した。材料購入から現地スタッフと行うことで現地スタッフの定期的な訪問時に歯ブラシの使用状況確認および歯ブラシ立ての修理が可能であると考えられた。ワークショップ準備では内容検討から現地スタッフが積極的に参加した。準備過程で障害者歯科医療に関する知識や考え方を共有することができた。ワークショップは2日間にわたり、各日とも現地スタッフが演者を勤めた。終了後に現地スタッフから自信になった、職員から現地スタッフに安心してより多くのことを相談できることが解ったとの意見が得られた。

本隊に依頼された病院スタッフを対象の障害者歯科医療に関する教育講演の演者に現地スタッフを推薦し共同講演とした。本活動に参加していない病院スタッフも現地スタッフが活動を通して専門的知識を習得していること、障害児・者は他の住民と同様に歯科保健活動の対象であるということを知ることにつながった様子であった。そのため講演後、トンガの障害者施設利用者を含めた障害児・者に継続した健康支援を行う方法について現地スタッフと病院スタッフとの間で長時間にわたる討論が行われた。

【考察】

国際保健活動には現地の協力が不可欠である。活動の継続によって活動に対して受身であった現地スタッ

フが熱心に活動計画立案から様々な意見を伝えてくれ、行動に移してくれるようになったことで活動が本隊の一方的なものから協力型・自立型へと幅を広げている。今後は自立型となった際にどのように本隊が支援していくかを検討したい。

【参考文献】

¹⁾ 遠藤真美, 河村康二, ほか: トンガ王国における障害児・者施設歯科医療ボランティア活動の新たな展開. 口腔衛生会誌, 59: 322, 2009.